



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟  
 編集・発行人 小島 隆也  
 東京都文京区林友ビル6階  
 〒112-0004 電話 03(3818)2906  
 FAX 03(3818)2907  
 毎月1回1日発行  
 定価 年3,000円  
 (会員は会費に含まれています。)

■第46回JAS製材品普及  
 推進展示会表彰式開催  
 四社に農林水産大臣賞

(一社) 全国木材組合連合会、(一社) 全国木材市売買方組合連盟及び (二社) 全日本木材市場連盟は、第46回JAS製材品普及推進展示会の表彰式・記念講演会を平成31年2月5日(火)、ホテルグランドヒル市ヶ谷(東京都新宿区)で開催した。出席は、服部順昭審査委員長(日本木材加工技術協会会長)、鈴木和雄全木連会長、市川英治全市連副会長、青木陽一郎全買連理事ほか三団体の役員、受賞関係者及び各木連など。



鈴木全木連会長

また、来賓として、農林水産省食料産業局谷口正範基準認証室長、林野庁木材産業課の猪島康浩課長等の行政の方々にご出席を頂いた。

全木連の鈴木会長は、主催三団体を代表し、本年度の展示会に、ご協力を頂いた関係者への謝辞、品質・強度の担保された、JAS製材品への期待がこれまでに以上に高まっており、JAS製品の普及及推進・供給体制を図っていききたい等挨拶した。

【審査結果の講評】

服部委員長より、次のとおり審査の報告を頂いた。

「昨年9月から12月まで5会場(一社) 全国木材組合連合会、(一社) 全日本木材市場連盟、(一社) 全国木材市売買方組合連盟主催の第46回JAS展示会の審査を行った。主催団体、各会場の審査委員とオプザーバー、検査員FAMI Cの皆様には厚く御礼。含水率測定を始め厳正な審査と総合調整審査ができた。今年度の出品工場数は61(昨年度63)で、前年度より2工場減、出品量は523m<sup>3</sup>(同648m<sup>3</sup>)でした。1工場当たり出品量は昨年度より2m<sup>3</sup>少ない8・6m<sup>3</sup>。今年度は、全て製材で機械等級材は出品工場数の46%でこれまでで最も高い。審

査結果は、100点満点が5工場(同13)と昨年度より大幅減。審査は減点法で、目立った原因は、格付実績での減点が6割と目立った。製材技術では、ナイフマークの粗さが、品等では格上げが目立った。S表示ながら鉋仕上げが部分的にされていないもの、欠石と格下げも散見。乾燥不足も2割弱見られた。含水率が全て規格を満たし加点された製品は40件、65%が含水率管理において規格どおり行われていたが、G材を除く残り11件は乾燥不十分。総合調整審査の結果、農林水産大臣賞4件、消費・安全局長賞12件、林野庁長官賞16件を決定し推薦しました。3団体の会長賞21件も選考しました。優良市場さん及び優良買方さん感謝状を贈呈、受賞されました皆様には心からお祝い申し上げる。審査を終えての全体的講評ですが、JASの基本的要求事項における減点が、昨年度より目立ち、更に品質管理の徹底を。格上げによる減点は悩ましく、購入者にとっては、喜ぶべきだが、JAS表示としては、まずい。



服部審査委員長講評

境界付近での格付けは困難を極める。画像認識と含水率計測を合体させた格付け自動化の安価なシステムが実現できればと思う。」

【表彰】

谷口基準認証室長に農林水産大臣賞と食料産業局長賞の贈呈を、猪島課長に林野庁長官賞を贈呈していただいた。

また、主催団体賞は、鈴木全木連会長が贈呈し、優良開催市場への感謝状は、



大臣賞贈呈の様子



長官賞贈呈の様子



優良市場表彰の様子

市川全市連副会長が贈呈した。(詳細は、別掲のとおり)

【来賓祝辞】

猪島木材産業課長から、受賞者へのお慶び等のほか、「利用期を迎えている森林資源を適切に経営・管理しながら、経済ベースで最大限に活用し、林業の成長産業化につなげていくことが喫緊の課題。林野庁として、国産材の安定供給体制の構築と国産材の需要拡大に努めていく。新設住宅着工戸数の減少が見込まれ、国産材の需要拡大には、非住宅や中高層建築物の木造化を進め、新たな木材需要を開拓することが重要。これらの建築物は、構造計算を求められることが多く、品質・性能の確かなJAS構造材が不可欠。JAS製品の格付実績の割合をみると、無垢製材は1割程度。林野庁では、昨年度補正予算等に引き続き、平成30年度第2次補正予算及び平成31年度当初予算案において、非住宅分野を中心とした建築物を対象にJAS製材等を実証的に利用する場合に部材調達費の一部を支援

する事業を実施することとしている。御参集の皆様には、品質・性能の確かなJAS製品の積極的な供給と普及推進に御尽力願いたい。」旨、御挨拶頂いた。

谷口室長は、受賞者への祝意と三団体への謝意を述べるとともに、「農林水産省としてJAS制度の普及や信頼維持に一層努めたい、関係者にJAS制度を活用して良質なJAS製品の供給、国産材の利用拡大に努めて頂きたい。」旨御挨拶頂いた。

【農林水産大臣賞】 ( ) は県名

- (株) 杏澤製材所 製材工場(秋田県)、東濃ひのき製品流通(協) 第二工場(岐阜県)、牧野木材工業(株) 本社工場(岡山県)、山下木材株式会社製材工場(岡山県)

【食料産業局長賞】

- (株) 佐藤製材所 製材工場(宮城県)、協和木材(株) 塙工場(福島県)、交告製材(株) 製材工場(岐阜県)、飛騨高山森林組合 新宮工場(岐阜県)、(株) 丸七ヒダ川ウッド 製材工場(岐阜県)、(株) 東海木材相互市場 大口工場(愛知県)、齋藤木材(有) 製材工場(三重県)、院庄林業(株) 久米工場(岡山県)、小林製材(株) 本社工場(岡山県)、鳥越工業(株) 製材工場(岡山県)、大林産業(株) 製材工場(山口県)、外山木材(株) 今町工場(宮崎県)

【林野庁長官賞】

- (有) 菊池製材所 製材工場(岩手県)、(有) マルヒ製材 製材工場(岩手県)、中国木材(株) 鹿島工場(茨城県)、丸川木材(株) 茨城県、二宮木材(株) 本社工場(栃木県)、金子製材(株) 製材工場(埼玉県)、ウッドリンク(株) 製材事業部製材工場(富山県)、(有) 倉地製材所 製材工場(岐阜県)、東白川製材(協) 製材工場(岐阜県)、(株) オオコーチ 勢和工場(三重県)、越井木材工業(株) 本社工場(大阪府)、(株) 山長商店 内地材工場(和歌山県)、(株) 丸左木材 製材工場(岡山県)、中国木材(株) 郷原工場(広島県)、(株) 佐藤林業 製材工場(熊本県)、(株) 日田十條 製材工場(大分県)

【優良市場】

- 丸宇木材市売(株) 北浜市場(埼玉県)、(株) 東海木材相互市場 大口市場(愛知県)、肥後木材(株) (熊本県)

【全木連会長賞】

- かつら木材商店 第二工場(和歌山県)、熊本モルダ加工事業(協) (熊本県)、(有) 森製材所 製材工場(岐阜県)、エンジンアウッド事業(協) (宮崎県)、天草森林組合木材流通センター 製材工場(熊本県)

【全市連会長賞】

- 宮内林業(株) 製材工場(宮崎県)、(株) 鈴鹿製材所 製材工場(岡山県)、伊藤林産(有) 製材工場(岐阜県)、(株) ネクスト 本社工場(大分県)、桑原木材(株) 金山工場(岐阜県)、都城木材(株) 宮村工場(宮崎県)

【全責連会長賞】

- 越井木材工業(株) 関東工場(茨城県)、江与味製材(株) 製材工場(岡山県)、八幡浜官材(協) 製材工場(愛媛県)、(株) 佐藤製材所 製材工場(熊本県)、(株) 松島木材センター 製材工場(熊本県)、(有) 三和物産 製材工場(熊本県)

【優良買方】

(株) 酒井材木店(埼玉県)、(株) ウツダイヨネダ(岡山県)、飯田綜合木材センター(長野県)、笠井木材(株) (埼玉県)、(有) 木下材木店(熊本県)

【記念講演会】

続いて、(一社) 全国木材検査・研究協会 山田壽夫理事長に『JAS製材品を取り巻く情勢と課題』と題して御講演いただいた。概要は以下のとおり。

- ・我が国の森林資源と素材生産(森林蓄積、人工林例宮構成、素材生産量等の推移)
- ・木材需給、立木価格
- ・(木材需要量、木材自給率、山元立木価格等の推移)
- ・住宅建築を巡る状況の変化(プレカット化の進展、和室の減少、耐震、高气密、高断熱等品質・性能が明確な資材が求められている)
- ・木材加工を巡る状況(国産針葉樹合板工場の躍進、大型製材工場建設)
- ・木材流通構造の変化(プレカット工場の役割、直送)
- ・課題への対応と施策(コスト低減、新流通・加工システム、新生産システム)
- ・脱国産材産地

- ① 強度、寸法精度等品質・性能の明確なKD、集成材への需要変化 コスト縮減により量で競うか、価値で競うか
- ② 長期的展望を持って取り組むことが重要
- ③ スギ合板生産 既成概念に囚われない取組
- ④ 将来の木材製品の動向を見通し、国際



講演の様子

市場での競争を視野に入れ、木材産業自身が木材産業の体質・体力を創る。地域ブランドから企業ブランドへ。地域ブランドによって製材品が選ばれる時代から、企業が自分の製品を保証する企業ブランドの時代へ。JAS製材品の安定供給が求められる。等大変に幅広い視点からのJAS製材品を取りまく情勢と課題について、豊富なデータに経験談を織り交ぜ、ユーモアたっぷりに判り易く御講演頂いた。

**■第22回全市連国産材需要拡大製材品特別展示会**

**1月26日 木曾官材市売(協)**

全市連、木曾木材工業協同組合(麦島照幸理事長)及び木曾官材市売協同組合(野村弘理事長)は、1月26日(土)、第22回全市連国産材需要拡大製材品特別展示会を開催した。来賓は、中部森林管理局の宮澤俊輔局長、村上淳長野県議会議員(木曾官材市売協同組合顧問)、長野県木曾地域振興局小田切昌彦課長、小島

和夫長野県木協連専務理事、大屋誠上松町長及び林 茂木曾森林管理署長ほか。開会にあたり主催者を代表し、全市連の西垣泰幸会長は、「国有林・県・町及び関係者の感謝と貴重な地域資源である天然木曾ヒノキ・高 等国有林材、プレミアムカラマツを地元で優良な製品に加工し、付加価値を付けて出荷することは、地方創生に資すると共に、資源の最大価値を実現することであり、引き続き安定供給をお願いする」挨拶した。続いて、木曾官材市売協同組合野村理事長から前日の審査結果について、「長官賞の信州カラマツ桁は、樹齢100年の歴史から作り上げられた、長尺、色合いのよさ並びに、信州プレミアムカラマツ」としてブランド化された商品価値等が高く評価された」等の講評を行った。



展示会の様子

ニーズに応えていきたい。今年の初市で、地元が自信を持って加工し、出品した製品ばかりなので、高値のお買い上げを願いたい」旨の御挨拶を頂いた。

木曾官材市売協同組合特別顧問の村上淳長野県議会議員は、「初セリ及び入賞者へのお祝いに加え、民国連携における国有林への感謝。我が国三大美林の材を生かす匠の技術への敬意を表すと共に、今年一年の商売繁盛を祈りたい。」旨の御挨拶を頂いた。入賞者は以下の通り。

◆長野市長官賞(信州カラマツ桁)(株) 勝野木材 ◆長野県知事賞(天然木曾檜桎盤)(株) 志水林業製材 ◆中部森林管理局長賞(高 国)木曾檜板盤一式)のむら木材(株) ◆全市連会長賞(きそひのき板目一式) 志水製材所 ◆長野県木連理事賞(天然木曾檜鴨居)(有) 滝正木材。式典後の初市は、約80人の買方様が参加。天然木曾桎(桎盤) 4m×21・5cm×21・5cmに250万円/m<sup>2</sup>、天然木曾桎(板目) 4・5m×36・5cm×4・5cm 3面無節に165万円/m<sup>2</sup>の高値がついた。総売上額は、1,550万円、平均単価26万6千円となった。

**■林材業の業況動向調査結果の概要(要点抄)**

(平成30年度下期)平成30年11月(独) 農林漁業信用基金

- 1 売上げの見通し 売上げの見通しDI(増加―減少)は△15Pとなった(前回比+8P)。
- 2 資金繰り等の見通し (1) 資金繰りの見通しDIは△10Pとなった(同△2P)。

- (2) 借入金調達難易度の見通しDI(容易―困難)は7Pとなった(同△1P)。
  - (3) 借入金残高の見通しDI(減少―増加)は△18Pとなった(同△2P)。
  - (4) 短期借入金金利の見通しDI(低下―上昇)は0Pとなった(同+4)。平均金利の実績は1・84%となった(同△0・1%)。
  - (5) 売上代金の回収状況及び仕入代金の決済状況については、
    - ① 売上代金の回収状況は「手形51%以下」が減少。
    - ② 受取手形のサイトの状況は、「3ヵ月未満」・「4ヵ月以上5ヵ月未満」・「5ヵ月以上6ヵ月未満」・「6ヵ月以上」の割合が増加、それ以外は減少。
    - ③ 仕入代金の決済状況は「手形50%以下」・「手形51%以下」・「手形80%以上」が増加、それ以外は減少。
    - ④ 支払手形のサイトの状況は、「4ヵ月以上5ヵ月未満」・「5ヵ月以上6ヵ月未満」・「6ヵ月以上」が増加、それ以外は減少。
- 3 設備投資の意向
- (1) 設備投資の見通しDI(実施―不実施)は△24Pとなった(同+3P)。30年度上期に設備投資を実施した企業の割合は31%で、DIは見通しより10P少ない。
  - (2) 設備投資の目的(上位3項目)は、「老朽化に伴う設備の更新」(57%)、「規模拡大のための増設」(15%)、「コスト低減等の合理化」(14%)。
  - 4 在庫量の見通し (1) 原木在庫量の見通しDI(過小―

- 過大)は△33Pとなった(同△17P)。
- (2) 製品在庫量の見通しD I (過小→過大)は△3Pとなった(同△5P)。
- 5 純利益の見通し純利益の見通しD I (増加→減少)は△21Pとなった(同+1P)。地域別見通しD Iは、「北陸」・「東海」・「中国」・「九州」が前回調査に比べ増加、その他の地域は減少。
- 6 木材価格の見通し
  - (1) 原木価格の見通しD I (下落→上昇)は49Pとなった(同+14)。
  - (2) 製品価格の見通しD I (上昇→下落)は12Pとなった(同△1P)。
- 7 当面する経営上の問題点
  - (1) 経営上の問題点(上位3項目)は、「人手不足」(22%)、「原材料仕入れ原価上昇」(21%)、「売上不振」(17%)。

### 働き方改革関連法改正

働き方改革関連法が2019年4月1日から順次施行されます。ポイントは以下の通り。

- 1. 時間外労働の上限規制導入  
(施行:2019年4月1日) 中小企業は、2020年4月1日) 時間外労働の上限について、月45時間、年360時間を原則とし、臨時的な特別な事情がある場合でも年720時間、毎月100時間未満(休日労働含む)、複数月平均80時間(休日労働含む)を限度に設定する必要があります。
- 2. 年次有給休暇の確実な取得(施行:2019年4月1日) 使用者は、10日以上の子年次有給休暇が付与される全ての労働者に対し、毎年5日、時季を指定して有給休暇を与える必

要があります。

3. 正規雇用労働者と非正規雇用労働者の間の不合理な待遇差が禁止  
(施行:2020年4月1日) 中小企業は、2021年4月1日) 同一企業内において、正規雇用労働者と非正規雇用労働者(パートタイム労働者、有期雇用労働者、派遣労働者)の間で、基本給や賞与などの個々の待遇とに不合理な待遇差が禁止されます。

・「働き方」に関する詳細・お悩みは「相談窓口」へ  
改正法の詳細は厚生労働省HP「働き方改革」の実現に向けて」をご覧ください。  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000148322.html>

### 第4回東京都モクコレ開催

平成31年1月29日(火)〜30日(水)、東京都は、東京ビッグサイト(江東区)において、「Wood コレクションモクコレ2019」を開催した。今年で4回目の開催となる。今年も、北海道から沖縄県まで、過去最大の全国40都道府県の310社・団体が出展し、多くの来場者でにぎわった。今回の展示では、東京都の秋川木材(協) 出品の多摩産材活用、北海道からのトドマツ等道特産材種を有効活用した製材品等、群馬県からは、佐々木木材防腐の全国でのブロック塀見直しの動きに対応した木製の塀などの製品等が出品され、来場者の注目を集めた。それ以外のブースにおいても、様々な工

夫により、消費地東京と各道府県が連携し、木材利用を拡大し、全国の森林を元気にすることを目的とした、にぎやかな展示会となった。29日のオープニングセレモニーには、小池百合子都知事、牧元幸司林野庁長官、松村二郎全国森林組合連合会長、島田泰助全木連副会長及びミス日本ミドリノ女神2019藤本麗華さん等も出席し、小池知事からは「国産材の需要創出に向けた取組を全国的に加速させていく必要があり、都市部での木材利用が進む中、積極的な木材利用を期待する」等開催趣旨を含めた挨拶を述べた。小池知事は、タイトなスケジュールの中、地元東京のブースで多摩産材活用製品に触れ、木材の良さを確認した他、木製の塀の展示特設コーナー等を視察した。全国知事会では、地震等によって崩壊の危険性のあるブロック塀の代わり、国産材を活用した木塀普及に向けて動いており、小池知事もその旗振り役として活躍している。



モクコレ展示 2019

### 雑記帳

最近、経済団体からの国産材等木材利用拡大への応援が相次いでいる。「林業復活・地域創生を推進する国民会議」は、昨年3月宣言を発表し、国産材の需要を高めていくため、「再造材を可能とする山元への利益還元の仕組みづくりとサプライチェーンの最適化、大規模・中高層建築の木造化、国産材など木材需要(公共・民間建築物等)の拡大を一層加速させる法制度の整備」と「森林資源の活用とその実現のための仕組みづくり(山の価値最大化)、商工会議所会館など地域活性化の拠点への木造・木質化の推進」を産官学連携して推進すべきとした。「経済同友会」は、同3月「地方創生に向けた」需要サイドからの「森林改革」日本の中高層ビルを木造建築に！」を公表。企業(施主)―木の良さを理解し、木造建築を積極的に採用。(1) 経営者自ら、木を使うことへの環境への効果や従業員への効能について正しく理解。(2) 企業行動として木造建築を採用することの位置づけを整理。(3) 自社物件について、国産材の利用拡大(建築・内装)を図る。(4) 国民の間に、国産材利用に向けた共感・ムーブメントを醸成。(5) 木造建築に対する理解度向上や意識改革を経営者/担当者に促す機会を設ける。としていく。経済団体からこのような国産材利用促進に関する宣言・提言は、記憶になく、国産材利用拡大に大きな追い風。林業・木材業界としても、応援にしっかりと応え、合法木材、JAS製品等国産材の安定供給に努める必要がある。